

大男は庭のまわりに高いかべをめぐらせ、立てふだを立てました。「立ち入る者にはばつをあたえる」大男はとてもわがままだったのです。かわいそうなことに、子どもたちは遊ぶところがなくなってしまいました道路で遊ぼうとしてみましたが、道路はとてもごみごみしていて、かたい石ころがいっぱいあって、好きになれませんでした。学校が終わると子どもたちは高いかべのまわりをうろうろして、中の美しい庭のことを話し合いました。「あそこで遊ぶのはなんて楽しかったんだろう」と、くちぐちに言いました。やがて春が来ました。国中に小さな花がさき、

小鳥たちがあふれました。わがままな大男の庭だけが、まだ冬でした。子どもたちがいなかったのも、鳥たちは歌いたくありませんでしたし木々は花をさかせるのをわすれておりました。あるとき、美しい花が一輪、草むらから頭をもたげましたが立てふだを見て、子どもたちがかわいそうになり、地面の中にまたもぐりこんで、ねむってしまいました。喜んだのは、雪としもだけでした。

「春はこの庭のことをわすれちゃったんだ」と二人は声をあげました。

「だから一年中ここに住もうぜ」雪は大きな白いがいとうで草をおおいながら、嬉しそうに言いました。す